

親子で育む国語力

国語力は、机に向かって学習することだけで身につくものではありません。実は、普段の生活の中に、たくさんのその機会が隠れていたりします。今回は、そのちょっとした機会をご紹介しますと思います。

家族団らんの場所に、一冊辞書を！



「これ、どういう意味？」

このようにお子さんに聞かれたら、どのように答えていますか。それはね…と答えるのがほとんどかと思われます。そんな時、辞書で調べるといふステップを取り入れましょう。辞書で調べることによって、一つの言葉に複数の意味があることを知り、また、同音や同訓の漢字の存在に気づくようになります。辞書の学習は、3年生からとなりますが、親子で一緒に使えば、低学年から楽しんで調べることができます。ゲーム感覚で、辞書早引きなんていうのもいいですよ。

目を合わせて会話を！

「今日ね、こんなことがあったよ。」と話しかけられたとき、どんな会話をしていますか。

その会話の中に大切な育みチャンスが隠れています。子どもに話しかけられた時、目と目を合わせながら会話ができていると、子どもの中に一生懸命伝えようという気持ちや、分かりやすく伝えようという気持ちが自然と育っていきます。一方、「ながら作業」で会話をしてしまっていると、その気持ちが徐々に薄れていってしまいます。

5分でも3分でも、毎日目を合わせながら会話を楽しんでみて下さい。食事の時間、お風呂の時間などちょっとした時間が子どもたちにとってとても大切な時間となります。また、「おはよう」「おかえり」「ありがとう」など、たった一言の言葉でも目を合わせてあげることで、子どもたちの中に気持ちを伝えようとする心、また、どのように伝えようかという工夫が育まれてくると思います。

各地の紅葉だよりがテレビ・ラジオを賑わわせ、戸田でも少しずつ木の葉が色づき始めるころとなりました。二学期も後半に入り、子どもたちも落ち着いた環境の中で、集中して学習に取り組んでいます。

本校国語科では、今年度の学校全体研究主題「生きる力をはぐくむ授業づくり」を受けて、以下のように研究テーマを設定しました。そして、日々の国語科授業の改善・充実と言語環境の充実を通して、児童一人一人の国語力の向上に取り組んでおります。

【国語科のテーマ】

言語能力を育み、活用できる力を身に付けた子どもをめざして

○国語科基礎学力の定着
(読む・書く・聞く・話す・言語事項)

- 理解力が高まり、表現力が豊かになること。
- 相手や目的を意識して、よりよい交流ができること。
- 他の教科の学習がよりよく分かること。
- 学習以外の日常生活(社会生活)が豊かになること。

<国語力を伸ばす日常的な取り組み>

本校では、児童が日常的に出会う様々な語彙や文章表現を大切にしようということで、言葉の力を育む様々な活動を取り入れています。

「音読・読書カード」

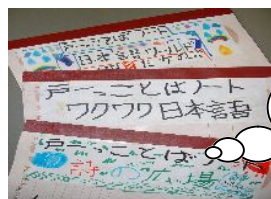
各学年の発達段階に合わせたカードを作成し、読む力の向上を図り、毎日取り組んでいます。

「戸一っことばノート」

思いついた心のつぶやき、気に入った台詞や言葉など本や日常生活の中で出会った言葉を書きとめています。

「ことばの広場」

学年ごとに、季節の言葉、好きな四字熟語、心に残った言葉などを掲示板に集めています。



不思議だな
すてきだな
やさしいね



※国語科の授業改善の紹介は、第7号にてご案内いたします。